

旅の思い出の 1ページになりたい



左 山根 正司 さん 右 木田 富夫 さん
Masashi Yamane Tomio Kida

鳥取の魅力 現場から発信

観光シーズンに、そろいの黄色いはっぴを着て、観光客の旅のお手伝いをするボランティアの人たちがいます。

平成13年に発足し、試行錯誤を重ねながら、徐々に活動を広げ、現在会員は17人、タクシーの運転手さんを中心とした「鳥取市観光ボランティアガイド友の会」のみなさんです。会長を務める木田さんもタクシーの元運転手さん。その木田さんが、「鳥取市には魅力あふれる観光地がたくさんあるのに、その魅力を発信し

現場で紹介する人がいない。観光客が訪れても一番有名な砂丘だけを見て帰ってしまうのはもったいない」とボランティアガイドの設立を思い立ちました。その土地の自然や文化に触れてみたいという観光客のニーズにこたえ、ぬくもりのある、『お客さんとともに楽しむ』ガイドをモットーに、日々頑張っています。山根さんは、職場の先輩でもあった会長の木田さんをバックアップするため平成16年に入会し、今では活動の中心的存在です。

山根さんは、「観光振興策

鳥取市観光ボランティア ガイド友の会



を話し合うのもいいが、そればかりではなく現場での活動を増やし、定着させることが大切」と考え、まずは木田さんと2人で仁風閣のガイドを始めました。この時用意した、はっぴ・立て看板・のぼりはすべて会員の手作りでした。その後も、中心市街地をめぐるツアーを企画するなど、実践に基づき日ごろの勉強の成果もあり、会員のガイド力は着実に向上しています。

報酬は『感謝の言葉』

労を惜しまない活動のエネルギー源は「鳥取が大好き、

全国の人にこの魅力を伝えたい」という強い思いです。

『ガイド』と言うと、完璧に記憶しておかなくては、とか、詳しく正確に説明しなければ、とか考えがちですが、「お客さんが楽しんで帰っていただければそれで十分」と木田さん。「観光客は、遊びに来ている。自分たちはそのお手伝いを少しするだけ。鳥取を訪れた観光客に喜んでもらえ、楽しい旅の記憶の1ページになればそれでいいんですよ」と山根さんは笑顔で話します。

夏の暑い時季に、ガイドし